

2014 年度は経常収益 3,951,179 円、経常費用 3,502,917 円となりました。2015 年度は、団体組織運営体制の見直しのため、受取会費、受取寄付およびイベント運営にかかわる助成金申請を休止していることから、経常収益 500,000 円、経常費用 800,000 円を計画していますが、状況に応じて費用を見直しながら活動を進めて参ります。

※収支計算書（正味財産増減計算書）はホームページに掲載しています。

2014 年活動報告

「すべての子ども達が愛し愛される大人に抱きしめられて、心からの安らぎを得て眠りにつけるように」…そのような思いでぐるーんは設立されました。乳児院で暮らす子ども達を抱きしめる活動、様々な立場の子ども達の交流イベントの開催、里親制度・養子縁組制度へのアプローチ、この 3 つを柱としてスタートして 3 年。2014 年 1 月に法人格認定を受け一般社団法人ぐるーんとしてより信頼性の高い組織運営をスタートさせました。

2014 年は＜里親制度や養子縁組制度の認知広報不足への対策＞と＜里親・養親候補と里子・養子候補の出会いの場の少なさへの対策＞を推進し、里親制度や養子縁組制度の普及を目指し活動を行いました。

＜里親制度や養子縁組制度の認知広報不足への対策＞

1. ぐるーんのサポーター活動についてのインターネット上での情報発信：サポーターの数が増えるということは、活動への共感が高まると共に、乳児院や児童養護施設で暮らす子ども達への関心も高くなることを意味します。親を必要とする子どもたち、また里子、養子の現状を伝えることにより、活動への共感を広め、また活動の社会的意義を訴えらるとともに、里親制度や養子縁組制度についての理解を広めました。12 月現在、登録サポーター数は 700 名、抱っこサポーター数は 100 名と増加し、4 組のサポーターが里親研修を受け里親登録しました。サポーターからの報告や体験のようすを自分の言葉で投稿したり、サポーター自身が常に問題意識を持ち学ぶ姿勢を維持できるよう、ぐるーん主催以外の講演会や勉強会の情報をホームページや Facebook ページを活用し情報発信しました。その結果、12 月現在で昨年の倍の 1600 名以上の方々がページを購読され、親を必要とする子どもたち、また里子、養子の現状についての理解が深まりました。加えて、yahoo 募金やソフトバンクかざして募金、ソーシャルプラットフォーム gooddo への登録など、インターネットを通しての認知向上に積極的に取り組みました。

2. マスコミ取材対応：大分や岡山の新聞の取材を受けることにより、一般家庭層に向けた幅広い情報発信を行うことができました。

3. パンフレットを活用した口コミ情報発信：支援者である印刷会社から制作いただいたパンフレットを活用し、10月の全国里親大会をはじめ児童虐待や里親制度・社会的養護に関する講演会や勉強会に参加し、来場者へ配布することで活動への理解を広げました。また、全国のサポーターに向けパンフレットを送り、そのサポーターが個々に口コミを通しての地元でぐるーんの輪を広げる活動を行いました。

4. 全国のサポーター活動支援

サポーター登録者数を増加させるだけでなく、抱っこやその他の活動への継続的な参加ができるよう、活動の中心地だった関東・岡山・大分だけでなく、他の地域でも抱っこが継続して行われるよう支援しました。メールだけのサポートだけでなく、実際に会って活動上生じる悩みや問題などを話し合えるグループを作り、新しいサポーターの施設へのアプローチができるよう、ベビースタイルプロジェクトや里親研修会、交流会などを実施し、地域の仲間の集まりとして積極的に推進し、その共通のミッションを持った活動を **Facebook** で展開することでクローズドのグループではなく、開かれたセル活動としました。

<里親・養親候補と里子・養子候補の出会いの場の少なさへの対策>

5. 交流イベント開催：一般家庭の子どもたちと乳児院や児童養護施設にいる子どもたちが一緒に遊ぶイベントを開催し、里親登録や養子縁組を考えている大人たちも楽しみながら参加することで、里子・養子候補の子どもたちと里親・養親候補者たちとの出会いの機会を作り里親・養親候補者たちの裾野を広げることを目的として実施しました。助成団体や開催地の市の教育委員会の後援や生活協同組合の協力を受け、3月の東京・城南島でのアートイベント、7月の岡山サバイバルイベント・9月の神奈川猿島サバイバルイベント・10月の茨城わんちゃんイベント、11月神奈川相模湖石老山サバイバルイベントなど計画通り開催し（8月のキャンプイベントは台風のため中止）延べ 236 名の参加者が里子、親とはなれて暮らす子、一般家庭の子と大人たちが集い垣根なく触れあえるイベントとなりました。また、その風景を動画カメラマンにより撮影し、質の高い動画を **PR** に活用いたしました。

活動を順調に進める一方で、下期に代表理事が病気療養のための活動休止があり、団体組織体制安定化のためイベント活動の見直しが図られ、2015年3月予定されていた神奈川茅ヶ崎海岸柳島サバイバルイベントは中止となりました。

2015年度の活動

団体組織体制安定化を優先事項とし、2014年実施した＜里親制度や養子縁組制度の認知広報不足への対策＞と＜里親・養親候補と里子・養子候補の出会いの場の少なさへの対策＞を継続推進し、里親制度や養子縁組制度の普及を目指し活動を行います。登録サポーター数は、現在の700名から900名、抱っこサポーターは100名から150名への増加を見込んでいますが、いたずらに数を追うことなく、継続率と質の向上を意識した運営を続けます。

広報活動については、2014年の取り組みを継続するとともに、さらに活動をよりわかりやすくするため、イメージ動画の制作、ストーリーとイラストによる活動の紹介を行います。

イベントについては、団体の組織体制が十分に整うまでは保留しますが、抱っこやイベントが子ども同士のみでなく、子ども達と里親候補・養親候補との出会いの機会になるよう、引き続き交流イベントを開催する方向で調整します。講演会や・サポーター同士の交流会等は抱っこに行っていないサポーターが継続して参加でき、実感がある活動として継続します。

さらに、施設職員や児童相談所との連携も進め講演会や里親心得座談会を開催し、サポーターだけでなく一般市民への情報発信し、里親・養親候補にぐる一んの活動を紹介し定期的に施設での抱っこができるようサポートします。

今後に向けて

抱っこというシンプルで根源的な行動を通して、子ども達に安らぎを与える、ぐる一んの活動は多くの人々の共感を得て、サポーターやスポンサーも増えましたがまだまだ全ての子ども達・大人達に家庭の温もりが必要です。

母親になる人には産前からのケア、施設にいる子ども達には温かいふれあいや里親・養親との新しい絆、里親・養親にはマッチングから子育て過程でのサポート、施設を卒園してからの子ども達には自立へのサポートなど、色々な課題も見えてきました。

それらの解決を推進するためには、当面、ぐる一んは抱っこという独自の活動を継続しあたたかさを伝えることを大切にしながら、既にそれぞれの分野で活動している団体や行政との連携も視野に入れ、新しい家族のかたちがオープンに受け入れられる社会の構築を目指します。この活動にさらに注力することで、子どもたちが愛情あふれる家庭ですこやかに育つ社会の実現に貢献したいと考えています。

引き続き、みなさまのご支援をお願いいたします。